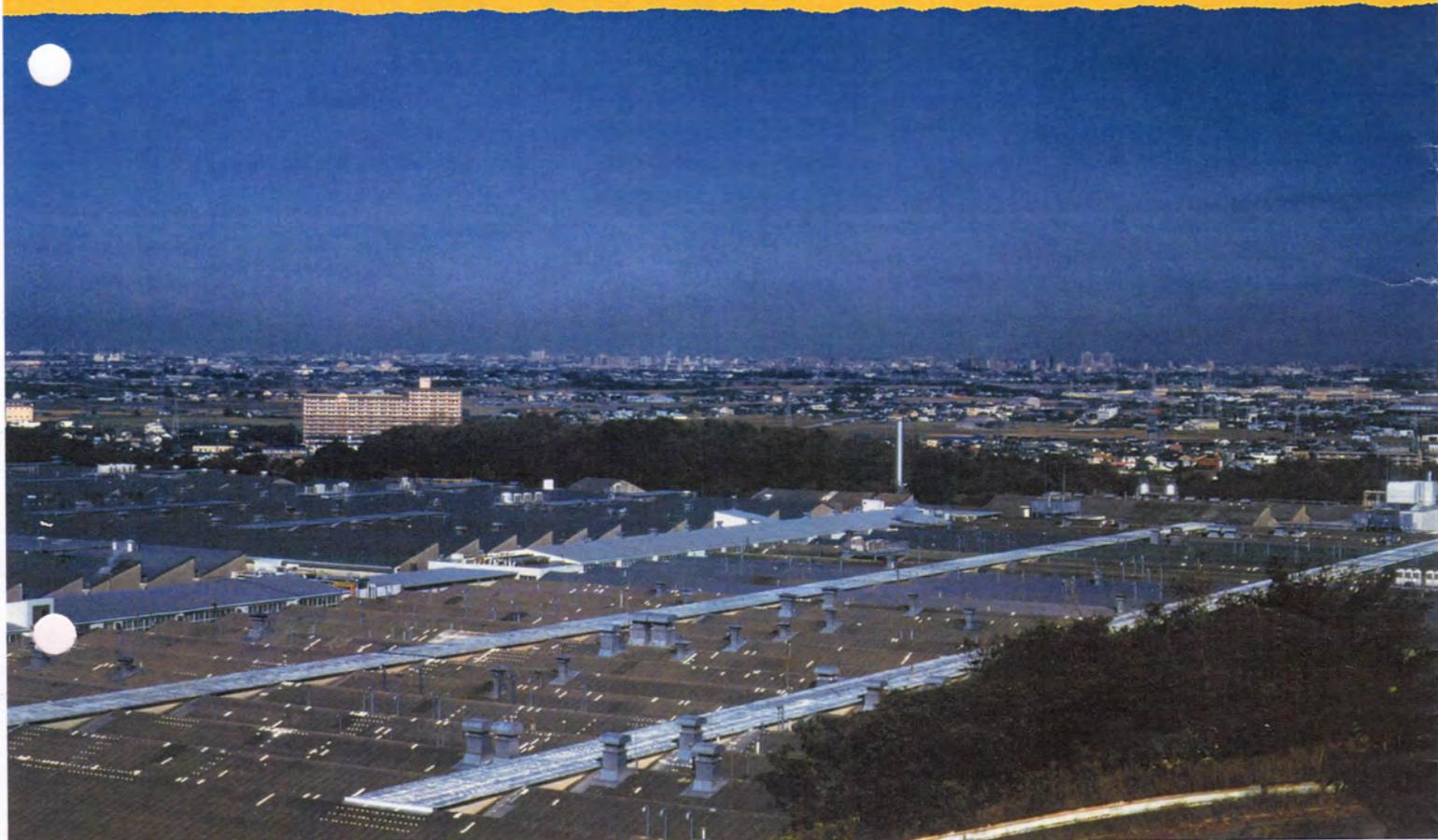


42

悠紀斎田と企業城下町

六ツ美南部学区

MUTSUMINAMBU



《悠紀の里のイメージキャラクター》





六ツ美悠紀齋田100周年記念お田植えまつりに秋、鑑宮岡紀斎殿下が御座席になった
 衣浦岡崎線の全線開通式を祝い、中村町から正名町までの725mを通り初めフリーウォーキング
 高橋用水中継所の壁画、岡崎城と桜、花火大会、八丁味噌、お田植えまつりなどが描かれている
 崇徳寺境内にあった六ツ美保育園、昭和25年に六ツ美保育園が開園し、機能が移管された
 中島駅のホーム。左手に広田川が流れる
 昭和5年頃の六ツ美第三尋常高等小学校。校舎の目の前を西尾軽便鉄道が走っていた

六ツ美南部学区の なりたち

DATA

人口	11,305人
男性	5,922人
女性	5,383人
二世帯数	4,280世帯
二面積	3.75㎢

[2016年7月1日現在]

- 一六〇三年・慶長8
- 一八七七年・明治11
- 一八八九年・明治22
- 一八九八年・明治31
- 一九〇四年・明治37
- 一九〇六年・明治39
- 一九〇八年・明治41
- 一九一一年・明治44
- 一九一五年・大正4
- 一九三一年・昭和6
- 一九四七年・昭和22
- 一九四八年・昭和23
- 一九五一年・昭和26
- 一九五六年・昭和31
- 一九五七年・昭和32
- 一九五八年・昭和33
- 一九六二年・昭和37
- 一九七〇年・昭和45
- 一九七八年・昭和53
- 一九八四年・昭和59
- 一九八九年・平成1
- 一九九〇年・平成2
- 一九九二年・平成4
- 一九九五年・平成7
- 二〇〇三年・平成15
- 二〇〇八年・平成20
- 二〇一〇年・平成22
- 二〇一三年・平成25
- 二〇一四年・平成26
- 二〇一五年・平成27

占部用水竣工

正名村が誕生（正名村と二軒屋村が合併）

中島村（下中島村と高畑村が合併）、占部村（国正村、中村、正名村、定国村、上三ッ木村、下三ッ木村、野畑村、下和田村、坂左右村が合併）、阿乎美村、糟海村、中井村が誕生

杉浦製糸所設立

中島耕地整理完工

碧海郡六ツ美村が誕生（中島村、占部村、合歓木村、青野村、糟海村、中井村が合併）

六ツ美第三尋常小学校開校

西三軌道（西尾軽便鉄道）の岡崎新—西尾間が開通

大嘗祭悠紀齋田の儀式が執り行われる（1特集）

中島新町に睦劇場ができる

碧海郡六ツ美村立六ツ美中学校開校

杉浦製糸所の乾燥場にマルス劇場ができる

六ツ美南保育園開園

後屋敷、定国で簡易水道開始

中島で簡易水道開始

町制施行で碧海郡六ツ美町となる

高橋用水竣工

碧海郡六ツ美町が岡崎市に合併

岡崎市立六ツ美南部小学校に改称

（株）デンソー西尾製作所創業

中島保育園開園

六ツ美南部学区市民ホーム設立

悠紀齋田保存会が主基齋田を訪問

六ツ美南部学区こどもの家設立

六ツ美中学校が学校分離（六ツ美中学校と六ツ美北中学校）

悠紀齋田保存会と主基齋田保存会が交流調印式を執り行う

六ツ美南部児童育成センター設立

六ツ美南部小学校創立100周年

六ツ美南部小学校が「六ツ南かるた」を制作

六ツ美中学校美術部が高橋用水中継所の壁画を作成

都市計画道路衣浦岡崎線が全線開通

地域交流センター六ツ美分館「悠紀の里」が全館オープン
 六ツ美悠紀齋田100周年記念お田植えまつりが開催



2年後の明治45年に高橋用水竣工

④ 瞳み合う心で誕生
六ツ美村
6つの村が互いに瞳み合い、助け合うことを目指して六ツ美村が誕生しました



③ 受け継いで
福作文化線と大嘗祭の齋田は京都より西を「主基」、東を「悠紀」と呼び、それぞれ2か所が指定されました。主基の地は香川県綾歌郡山田村（現在の綾川町山田上）でした



⑧ 平安は葦嶋五郷の名を残す
平安時代、葦が生い茂った土地だったことから、現在の占部川、矢作川、矢作古川、広田川に囲まれた地域（葦嶋、和田郷、占部郷、中島郷、江原郷）は「葦嶋五郷」と呼ばれていました。日長社の社伝によれば、この地域は海中の島で、「日長加島」と呼ばれていたとされています。これが中島町の由来です。



⑨ 耕地整理し
二毛作遂げた鶴田勝蔵
明治32年（1899）の耕地整理法によって、下中島村境中島町では全国に先駆けて耕地整理が始まりました。その中心人物が中島町の鶴田勝蔵です。米と麦とを混植といた二毛作が可能な水田に改良し、収穫量を増やしました。とくに菓種栽培が盛んになり、六ツ美村の生産量は全国一を誇りました。



⑩ 不毛地を潤す明治の高橋用水
江戸初期の慶長8年（1603）に完成した占部用水は、愛知県で2番目に古い農業用水です。占部村の野本新十郎と渡辺源蔵が私財を充ちり、用水の建設に尽力しました。明治16年（1883）には衆議院議員の早川集介、六ツ美村初代村長鶴田恒雄によって高橋用水の工事に着手。農業用地としてさらに発展しました。



⑪ 汽車走る西尾岡崎軽便の道
明治43年（1910）の西三軌道保式（株）の設立は、鶴田恒雄と鶴田勝蔵も協力して、明治44年に西尾岡崎新幹線が開通し、六ツ美村内では中島駅と占部停車場を設け、大正4年の大嘗祭悠紀齋田の際には臨時列車も運行しました。昭和18年に戦争のため休止を経て、復活することなく昭和34年に廃線されました。

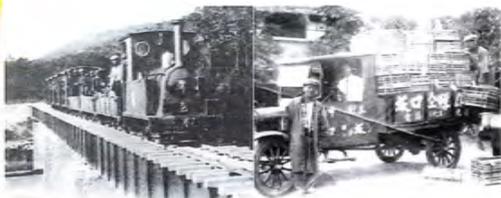


⑫ デンソーができて学区の力増す
岡崎の南西端にある六ツ美南部学区は、古くから西尾市や幸田町の交通も盛んでした。昭和45年、広田川の東側にデンソー西尾製作所が設立。隣接する中島町では土地区画整理が行われ、アパートやマンションが建設されました。それに伴い、六ツ美南部小学校の見直しも著しく増加しました。



⑬ 東名に通ずる便利な衣岡線
平成26年3月、都市計画道路衣浦岡崎線が全線開通しました。県道岡崎線とつながるこの道は東名高速道路と国道1号へも通じています。また、衣浦岡崎線を南に走れば国道23号に接続し、名古屋方面へのアクセスも良く、さらなる地域活性化に期待が寄せられています。

六ツ南かるたで読む 六ツ美南部の歴史



矢作古川の鉄橋を走る西尾軽便鉄道
ひよこを積んだ坂口人工研化場の車。中島駅から全国に出荷された

鉄道も走った!
明治44年(1911)に西尾〜岡崎新駅間13.3kmの営業運転が始まりました。駅は八つあり、六ツ美南部学区には中島駅と占部停車場が設置されました。1日2往復の運行が、大正4年頃には12往復になり、石炭、木材、玄米、肥料、生薬などの貨物輸送が盛んになりました。悠紀斎田お田植えまつりや岡崎公園の花見の時期には臨時列車が走りました。

鉄道も走った!

六ツ美南部学区 まちあるきマップ

六ツ美南部学区は花いっぱい町。神社や公園には桜やツツジ、高橋用水路や悠紀の里周辺には桜の苗が植樹されています。また、かつて多くの商店が軒を連ねていた中島町には、創業100年以上の老舗が健在です。花や名木を愛で、買い物を楽しむにきてください。

六ツ美南部の名木と花



正名のくろがねもち



八幡社の招雲木(おがたまのき)



新田公園のツツジ



中島児童遊園の桜



地図のアイコン

- ★ サクラ
- ★ ツツジ
- ★ ヒガンバナ
- ★ コスモス
- 名木
- 今はない昔のスポット

中島町には明治時代から続く医院が3つ。橋田眼科医院の前身は創立当時のまま

表紙写真はデンソー西尾製作所から撮りました!

昭和初期の杉浦製糸所では500人もの女工さんが働いていた。2003年杉浦製糸所の乾燥場を利用して昭和23年に開業したマルス劇場。芝居を中心に地元の舞踏会なども開かれた。写真は昭和28年の新築落成式。700人収容の大劇場で、大勢の人々が訪れた。中島商店街の大売出し、村中を宣伝して回った



にぎわった昭和初期の中島の街





(上) 八幡社の山車
(下) 日長社の七福神



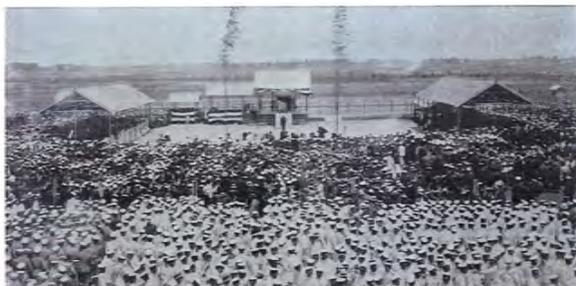
ね 練り歩く
日長八幡
ちりからばやし



「ちりから囃子」のちりからとは長唄の囃子用語で、ちりは大鼓、からは小鼓を表します。矢作川流域、特に六ツ美地区には祭礼時に太鼓・笛などの楽器を奏で、屋台車とともに村内を練り歩く囃子がたくさんあります。チャラボコもその一つです。

六ツ美南部学区では日長社と八幡社の秋の例大祭で明治30年頃からちりから囃子が行われてきました。日長社では七福神に扮した若者らが手踊りを披露し、祭りを盛り上げました。現在、八幡社ではやし保存会が中心となり、子どもたちにちりから囃子を伝えています。

《毎年10月10日前後の日曜》



大正4年6月5日に開催されたお田植えまつり



平成27年6月7日に行われた六ツ美悠紀齋田100周年記念お田植えまつり

六ツ南かるたで読む
六ツ美南部のまつり

た 大正の
天王即位
お田植え祭り



天皇が即位した年に行う祭を大嘗祭といいます。その年に収穫した米を神々に供え、天皇陛下もお召し上がりになります。この献上米を作る水田を齋田といいます。

大正3年(1914)3月、数多くの候補地から碧海郡六ツ美村(現岡崎市中島町)が齋田に選ばれ、村中が喜びに沸きました。同年4月に昭憲皇太后が崩御したため、翌年の大正4年に執行。悠紀齋田に向けて奉公者を107名選び、儀式には約4600名が参加しました。6月に開催されたお田植えまつりには7



お田植え踊り



大正4年のお田植えまつりで配布された『中島案内』。大嘗祭悠紀齋田の概要、中島の名所旧跡、飲食店、「萬歳」を使用したお土産などが紹介されている。編者は耕地整理に尽力した早川治三郎(じさぶろう)

も 持ち稲の
萬歳育て
奉納する



献上米の稲は、「萬歳」という品種の苗が選ばれました。碧海郡の早生種で、「郡益」という名が付いていましたが、一大行事を未永く記念するため改称。その後、萬歳の栽培は途絶えていましたが、平成27年に悠紀齋田の古跡地に開館した「悠紀の里」の一角で栽培されています。

万人以上の人々が参加し、大変な賑わいだったそうです。この名譽を記念して、六ツ美地区では毎年6月第1日曜日に「六ツ美悠紀齋田お田植えまつり」を行っています。平成27年の六ツ美悠紀齋田100周年記念式典には秋篠宮同妃両殿下が御臨席にされました。

ほ 豊作を
祈る神々
御田扇祭り



素盞鳴神社(定国町)から占部天神社(中村町)への渡御

「御田扇祭り」は五穀豊穡を願った江戸時代から続く祭りです。地元では「扇さん」と呼ばれています。地元では「扇さん」と呼ばれた六ツの地域で行われていましたが、現在は山方手永(13町)と堤通手永(20町)の二つ。手永を構成する町が一年ごとに持ち回りで、翌年当番する隣町の神社まで、神輿や大団扇を担いで渡御します。

《毎年7月20日前後の日曜》



御田扇祭りの名の由来にもなっている大団扇

岡崎市地域交流センター
六ツ美分館
「悠紀の里」

六ツ美地域の歴史や文化財を紹介する資料室と地域交流スペースが併設。資料室には悠紀齋田に使用された農機具や記念品、当時の写真が展示されています。

大嘗祭悠紀齋田の
米づくり

大嘗祭に納める献上米を作るために、稲の種まきから田植え、刈取り、稲ばき、籾、溜りなどの一連の作業が六ツ美村で行われました。奉公する人々の衣装や農具も特別に作られました。大正4年10月16日、安城駅から特別列車で京都に選ばれ、11月14日に大嘗祭が執り行われました。



《はぎとり》



《田植え》



《稲刈り》



《供納米を運ぶ》



《籾を乾燥》



《脱穀》

我が郷土 六ツ南かるたで 愛深め

▷ふれあい六ツ南かるた大会。両手を頭につけて無言で待ち、読みあげられた句のかるたを取るのがルール。毎回白熱した戦いが繰り広げられます。



△かるたに描かれた場所を訪ねるウォーキング。



平成22年、六ツ美南部小学校の6年生が卒業記念に製作したのが「六ツ南かるた」です。後世まで語り継ぎたい自然・歴史・偉人・産業・文化財などを選び、教師や地域の人々と一緒に完成させました。読み札の文字は学区在住の書道家、鶴田千枝さん、絵札の絵は日展入選の画家、浅井貞男さんが描いています。毎年11月には「六ツ南かるた」の地を訪ねるウォーキング、1月には「ふれあい六ツ南かるた大会」を開催。かるたを通じて、ふるさとの魅力を再発見し、未来の子どもたちにも伝えていきたいです。



「六ツ南かるた」は1セット500円(税込)で販売しています。欲しい方は六ツ美南部小学校までお問い合わせください。
☎ 0564-43-2105

子どもたちからのメッセージ ※平成27年度



豊かな自然に恵まれ、伝統的なお祭りもあるこの町の良さをいつまでも残していきたいです。

六ツ美中学校3年
高木 颯斗 さん (中島東町)



地域の方々笑顔にあふれた温かい町。時代が変わっても、この景色は変わらないでほしいです。

六ツ美中学校3年
牧 花帆 さん (中島東町)



編集後記

1970年代の企業進出に伴い、全国各地から移住してきた企業戦士たち。地域の歴史を顧みる機会を得て、三河エリア、とくに碧海・岡崎の変遷や近隣の市町とのかかわりをいろいろと知ることができました。六ツ南の豊かな自然や文化に育まれた「ベッドタウン」、今後の発展には戦いを終えた世代の継続的な「まちづくり」の取り組みが大きな推進力になることでしょう。みんなで「仲よく・楽しく」、気楽にチャレンジしていきたいと考えています。

〔作成委員会〕 茶木正 / 柴田彰 / 榊田義則 / 腰山義之 / 杉浦勝英 / 杉浦久直

〔参考資料〕 六ツ美村誌 / 六ツ美風土記 / 六ツ美南部の歴史・文化を紐解く / わたしたちのふるさと 六ツ南114選 / 悠紀齋田中島案内 / 碧海大地の農業の礎 大嘗祭悠紀齋田 / 大嘗祭六ツ美悠紀齋田100周年記念事業記念誌

〔写真・資料協力〕 斎藤晃 / 鶴田泰正 / つるや呉服店 / 近江屋酒店 / 早川佐代子 / 高橋富寿 / 平野敦子 / 手島奈代子 / 鈴木喜信

〔表紙写真〕 デンソー西尾製作所から眺めた六ツ美南部学区と六ツ美悠紀齋田100周年記念お田植えまつり (2016年6月・2015年6月撮影)